

鉄筋コンクリート造 耐震診断時の読み合わせ用資料について

読み合わせ用資料として下記の資料を提出してください。

なお、資料を提出の際には、**片面印刷のうえ、クリップ止め**としてください。

(両面印刷やホッチキス止め、穴あけ紐止めでの提出はやめてください。)

- ・ § 3 建築物及び耐震診断結果概要

- 3.1 建築物概要及び構造概要

- 3.2 耐震診断概要

- 3.3 耐震診断結果

- 3.4 配置図

- 3.5 意匠図(平面図・立面図)

- 3.6 構造図(伏図・軸組図)

- 3.7 破壊形式図

- ・ 質疑回答書(委員会、小委員会)

報告書の § 1と同じ内容ものを添付してください。

次ページからの参考例に注意事項等を示していますので、確認して提出してください。

参考例は、上記の要領でまとめていますが、§ 3の内容を下記要領で、タイトル等を整理しても問題ありませんが、**意匠図、構造図の順番**は守ってください。

- § 3 建築物及び耐震診断結果概要

- 3.1 現況の建築物及び耐震診断結果概要

- 3.1.1 建築物概要及び構造概要

- 3.1.2 耐震診断概要

- 3.1.3 耐震診断結果

- 3.2 配置図

- 3.3 意匠図

- 3.3.1 平面図

- 3.3.2 立面図

- 3.4 構造図

- 3.4.1 伏図

- 3.4.2 構造図

- 3.5 破壊形式図

報告書の § 1と同じ内容ものを添付してください。

※評価書には建築物概要及び耐震診断結果概要、配置図、意匠図(平面図、立面図)が添付されます。

※報告書の § 1 を § 3 に変えてください。

§ 3 建築物及び耐震診断結果概要 注意事項には をしています。

3.1 建築物概要及び構造概要

(診断)

発注者		〇〇〇			
耐震診断	診断者	〇〇〇		※報告書は発注者の承認を得ていることなどを記述する。	
	診断者住所	〇〇〇			
	診断年	平成〇〇年〇〇月			
	診断評価番号	HA0 34-00-0000			
診断建物名称		〇〇〇			
診断建物所在地		〇〇〇			
診断建物設計者		〇〇〇			
診断建物施工者		〇〇〇			
診断建物規模		地上 〇 階	地下 〇 階	塔屋 〇 階	建築物の特徴 ※下記の項目などを記述する。 ・建築物の軸線
診断建物竣工年		昭和〇〇年 (経過年数〇〇年)		・増築の有無	
主要用途		〇〇〇		・増築・改修の時期	
主要仕上		外壁 〇〇〇	屋根 〇〇〇	・外壁、屋根の仕上げ	
建物形状	平面形	〇〇〇		・建物形状の特徴	
	立面形	〇〇〇			
建物面積	建築面積	〇	m ²	・床面積の内訳	
	延べ面積	〇	m ²		
	〇 階	〇	m ²		
建物高さ	軒高さ	〇	m		
	〇 階	〇	m		
建物長さ	X方向	〇	m		
	Y方向	〇	m		
隣接建物 避難階段等		〇〇〇		・隣接建物 ・EXP. Jの間隔、高さ比 ・避難階段・滑り台の有無、接合方法 ・その他重要事項	

構造概要 *耐震診断	構造種別	<u>〇〇〇</u>		構造の特徴	
	架構形式	X方向	<u>〇〇〇</u>		※下記の項目などを記述する。 ・架構形式
		Y方向	<u>〇〇〇</u>		
	スパン数	X方向	<u>0</u>	スパン	・極脆性柱の位置 ・下階壁抜け柱の位置 ・大スパン梁の位置 ・持出し部材の位置
		Y方向	<u>0</u>	スパン	
	スパン長	X方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	
		Y方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	
	極脆性柱	X方向	<u>極脆性柱の有無</u>		
		Y方向	<u>極脆性柱の有無</u>		
	下階壁抜け柱	X方向	<u>下階壁抜け柱の有無</u>		
		Y方向	<u>下階壁抜け柱の有無</u>		
	大スパン梁	X方向	<u>大スパン梁の有無</u>		
		Y方向	<u>大スパン梁の有無</u>		
	持出し部材	X方向	<u>持出し部材の有無</u>		
		Y方向	<u>持出し部材の有無</u>		
	層重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN	
	単位重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN/m ²	
	柱壁量	<u>0</u> 階	X方向	Y方向	
<u>0</u>			<u>0</u>		
基礎地盤	基礎形式	<u>〇〇〇</u>		・地盤	
	長期支持力	<u>〇〇〇</u>			
	支持層	<u>〇〇〇</u>			
	支持深さ	<u>〇〇〇</u>			
	地盤種別	<u>〇〇〇</u>			
	敷地状況	<u>〇〇〇</u>		・敷地	
その他	<u>〇〇〇</u>		・その他重要事項		

使用材料・強度*耐震診断	既存コンクリート	強度	設計基準強度	<u>0</u> N/mm ²	材料の特徴 <u>※下記の項目などを記述する。</u> ・コンクリート強度、中性化の内訳
		<u>0</u> 階	推定強度	<u>0</u> N/mm ²	
	中性化	基準値	<u>0</u> mm		
		測定値の最大	<u>0</u> mm		
		各階の中性化深さ	<u>0</u> 階 <u>0</u> mm		
既存鉄筋		材質	降伏点強度		・鋼材の降伏点強度の根拠（割増の有無）
		主筋	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²	
		帯筋	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²	
		あばら筋	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²	
		壁筋	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²	
スラブ筋	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²			
既存鉄骨	柱	材質	降伏点強度		・鋼材の降伏点強度の根拠（割増の有無）
		<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²		
	梁	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²		
その他	ボルト	材質	引張強度		・鋼材の引張強度の根拠（割増の有無）
		<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²		
	その他	<u>000</u>			・その他重要事項

3.2 耐震診断概要

(診断)

現地調査＊耐震診断

設計図書の有無	<u>〇〇〇</u>	特記事項
被災履歴	<u>〇〇〇</u>	※下記の項目などを記述する。
図書の照合	<u>〇〇〇</u>	・調査方法、箇所について発注者と協議
ひび割れ劣化	<u>〇〇〇</u>	・左記項目の内、重要な項目
不同沈下	<u>〇〇〇</u>	・CAD化した図面の発注者の承認
部材寸法	<u>〇〇〇</u>	
基礎状況	<u>〇〇〇</u>	
コンクリートブロック	<u>〇〇〇</u>	・コンクリートブロック
非構造部材	<u>〇〇〇</u>	・非構造部材
その他	<u>〇〇〇</u>	・その他重要事項 ・鉄骨がある場合はその他に記載する。

モデル化および計算手法*耐震診断	節点振り分け	<u>〇〇〇</u>	特記事項
	仮想仕事法	<u>〇〇〇</u>	※下記の項目などを記述する。
	荷重増分法	<u>〇〇〇</u>	・回転壁
	解析用外力分布	<u>〇〇〇</u>	・外力分布
	剛床・ゾーニング	<u>〇〇〇</u>	・使用プログラム、バージョン
	部材内法寸法位置	<u>〇〇〇</u>	・その他重要事項
	壁	<u>〇〇〇</u>	
	下階壁抜け柱	<u>〇〇〇</u>	
	軸力変動	<u>〇〇〇</u>	
	柱耐力	<u>〇〇〇</u>	
	梁耐力	<u>〇〇〇</u>	
	第2種構造要素	<u>〇〇〇</u>	
	偏心率の算出方法	<u>建防協のB法による。</u>	
使用プログラム	<u>〇〇〇</u>		

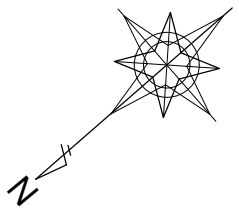
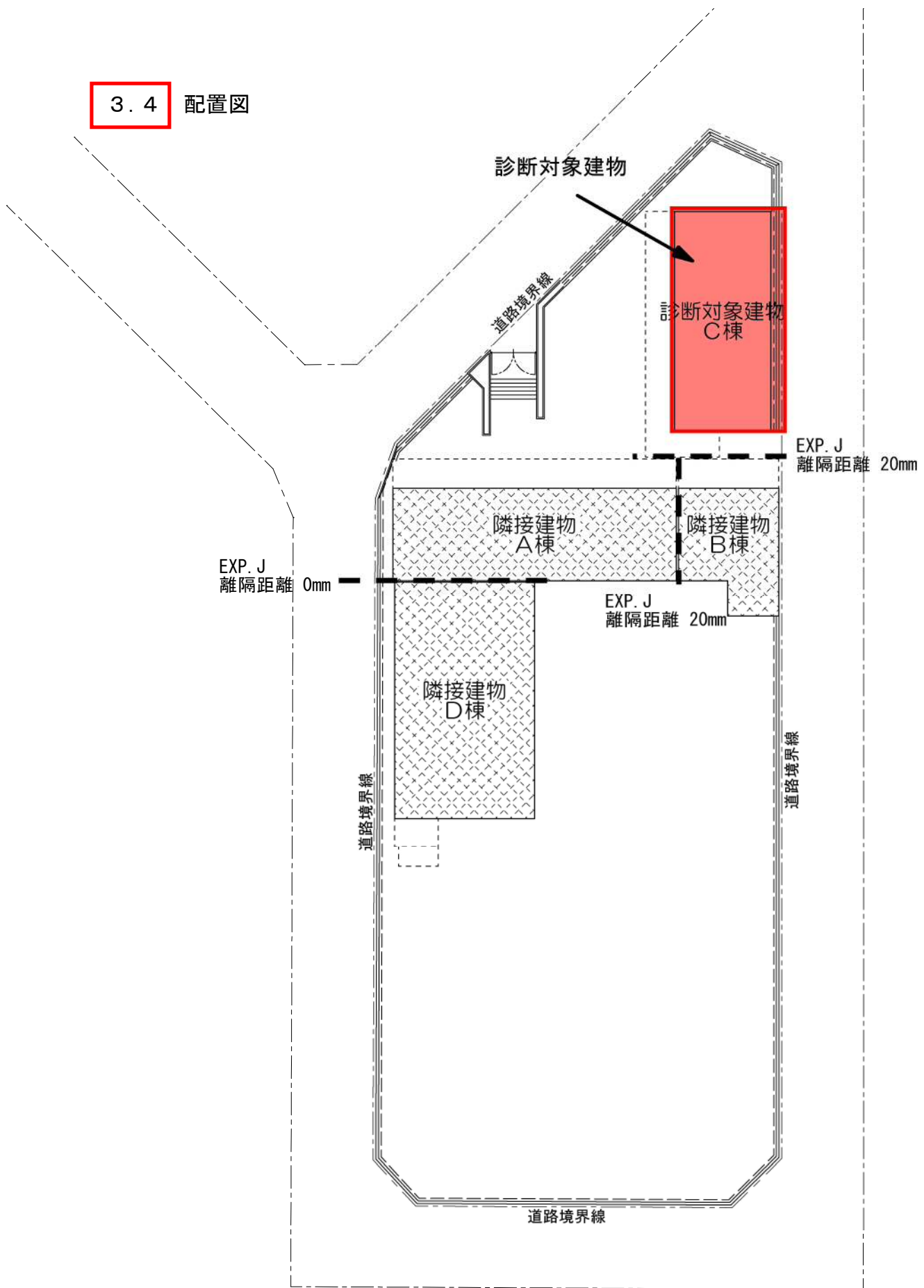
3.3 耐震診断結果

(診断)

耐震診断基準	※診断基準は、採用した主たる基準を記述し、準拠した基準も列記する。			
耐震診断次数	〇〇〇			※発注者と協議を記述する。
耐震診断諸数値	地域係数： $Z = 0.00$ 用途係数： $U = 0.00$ 地盤指標： $G = 0.00$ 振動特性係数： $R_t = 0.00$ 経年指標： $T = 0.00$ RC造： $S_T = 0.30$ 形状係数 S_D は建防協のB法とする 外力分布補正係数は Δi 分布とする。			
	RC造： $I_s = E_o \cdot T \cdot S_D / (Z \cdot R_t \cdot G)$ RC造： $q = C_{TU} \cdot S_D / (S_T \cdot Z \cdot G)$			
耐震診断判定指標	$I_{so} = 0.00$ $q \geq 0.00$			※発注者と協議を記述する。
耐震診断結果	X方向			考察
	階	I_s 値	q値	判定
	1階	0.00	0.00	〇〇〇
	Y方向			※下記の項目などを記述する。 ・第二種構造要素 ・極脆性柱
	階	I_s 値	q値	判定
	1階	0.00	0.00	〇〇〇
	・下階壁抜け柱 ・判定結果考察			
	特記事項			
	※下記の項目などを記述する。 ・コンクリート強度 ・地盤 ・コンクリートブロック ・非構造部材 ・隣接建物 ・大スパン ・持出し梁 ・鉄骨 ・詳細な調査の必要性 ・改修の必要性 ・補修の必要性 ・その他重要事項			

X方向												
	階	ΣW (kN)	E_o	S_D	T	$C_{TU} \cdot S_D$	I s	q	F1	F2	F3	破壊形式
→	正加力											
	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
←	負加力											
	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
Y方向												
	階	ΣW (kN)	E_o	S_D	T	$C_{TU} \cdot S_D$	I s	q	F1	F2	F3	破壊形式
→	正加力											
	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
←	負加力											
	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
凡例												
※下記の記述は参考例である。												
CB 曲げ柱 : CS せん断柱 : CSS 極脆性柱												
CWB 壁付曲げ柱 : CWS 壁付せん断柱 : CWSS 壁付極脆性柱												
WB 曲げ壁 : WS せん断壁 : WR 回転壁												
WWB 曲げそで壁 : WWS せん断そで壁												
特記事項												
※決定した方向などを記述する。												
※その他重要事項												
判定基準は以下とする												
(1) Isが0.3未満又はqが0.5未満・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。												
(2) (1)、(3)以外・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。												
(3) IsがIso以上かつqが目標値以上・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。												
ゾーニングで検討を行っている場合はゾーニング図を添付してください。												

3.4 配置図

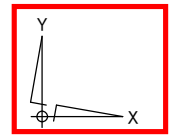
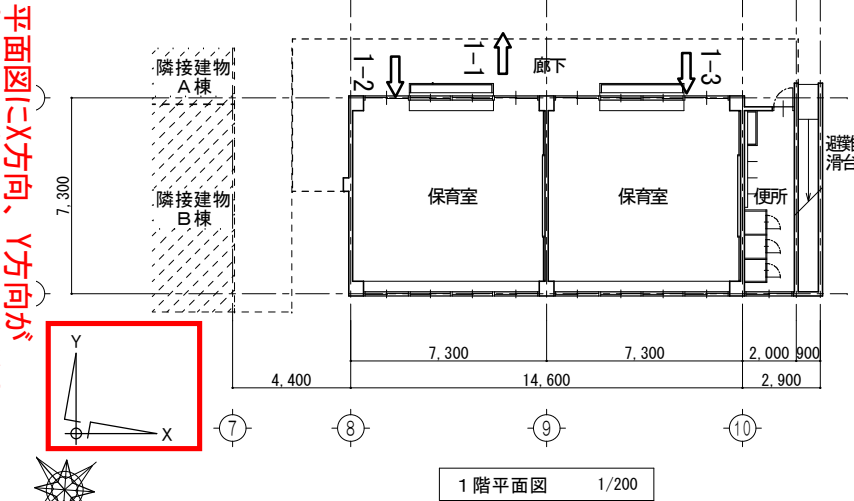
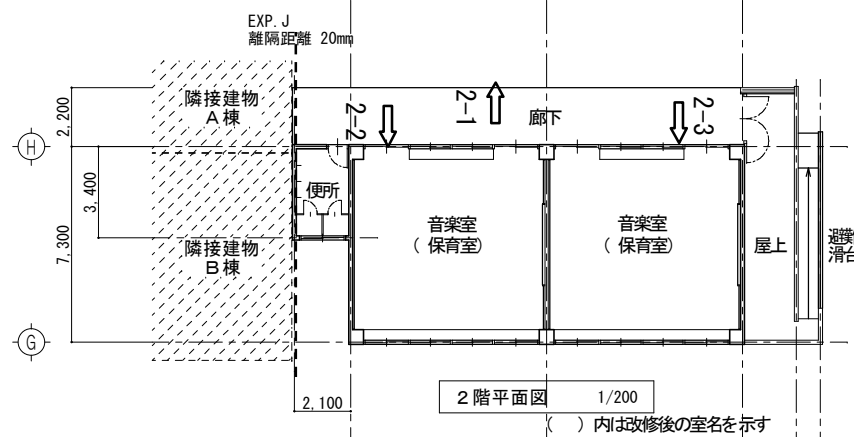
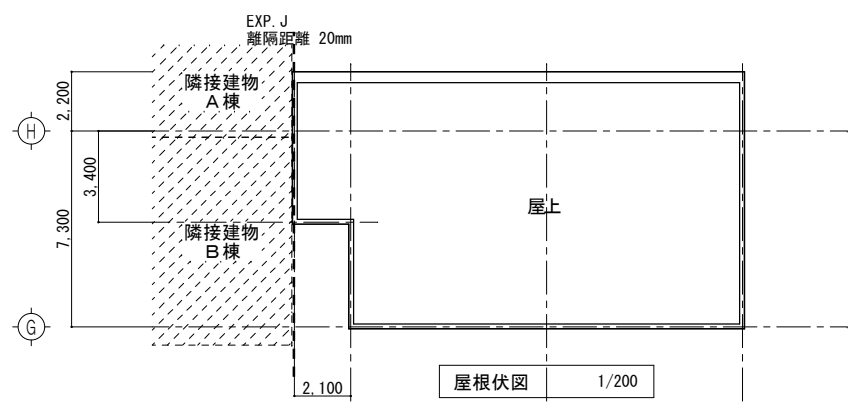
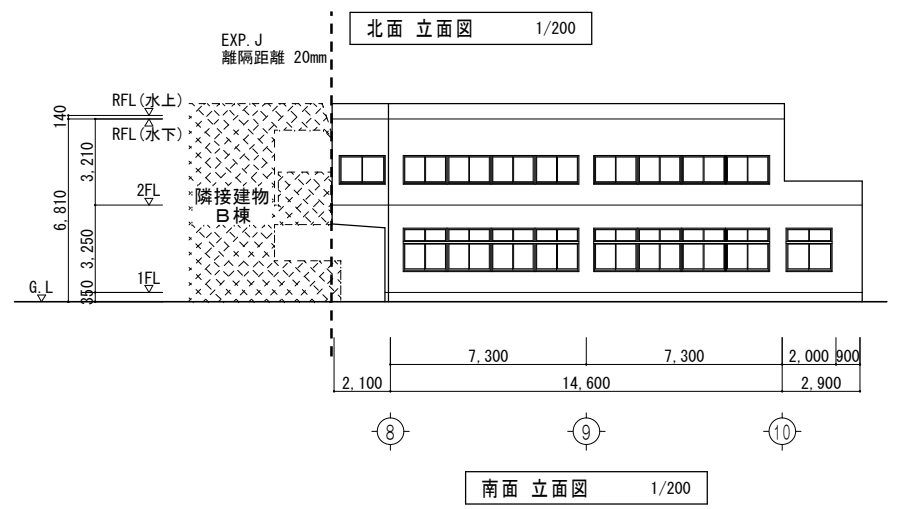
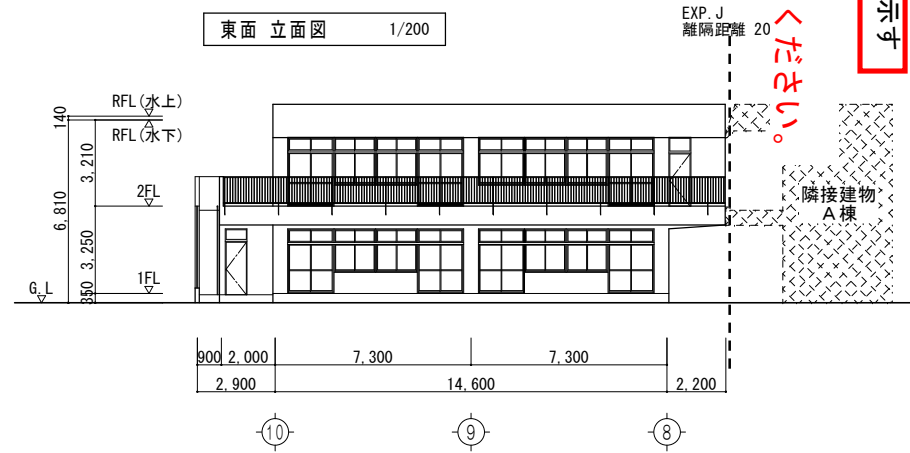
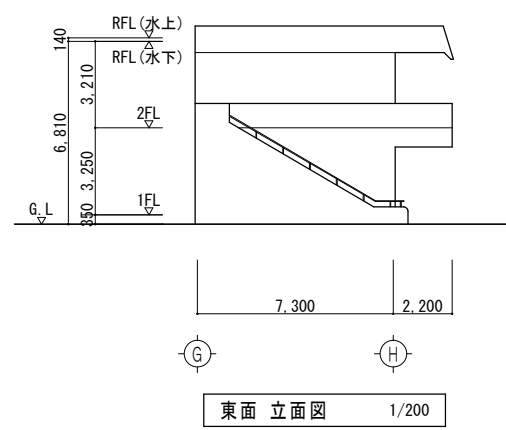


配置図 1/400

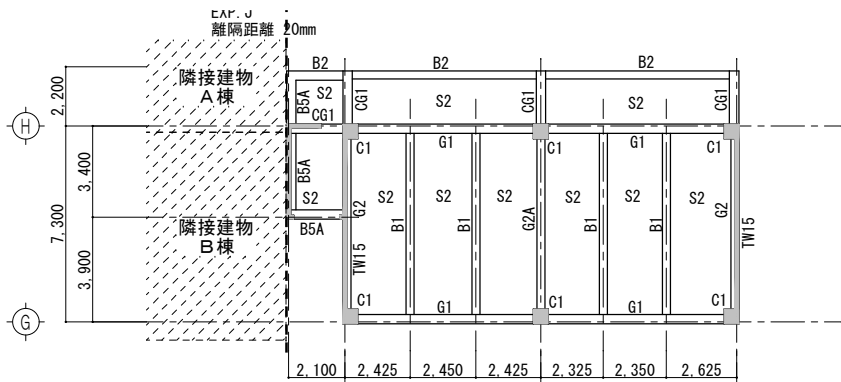
3.5 平面図・立面図

⇨ はコア採取位置を示す

※コンクリートコアの採取位置を記入してください。

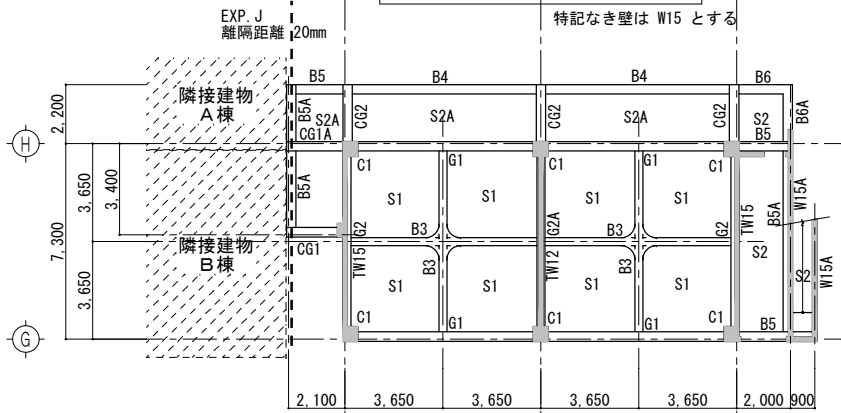


平面図にX方向、Y方向がわかるように記入してください。



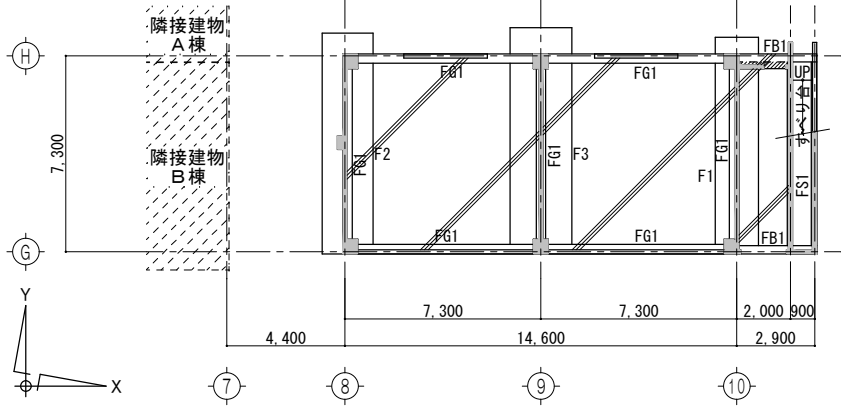
2階柱R階梁床伏図 1/200

特記なき壁は W15 とする



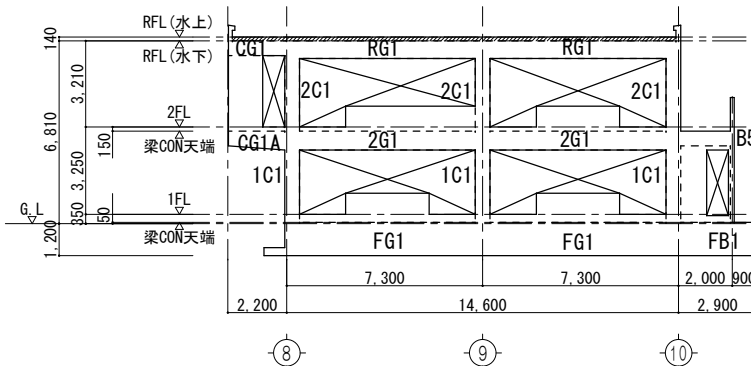
1階柱2階梁床伏図 1/200

特記なき壁は W15 とする



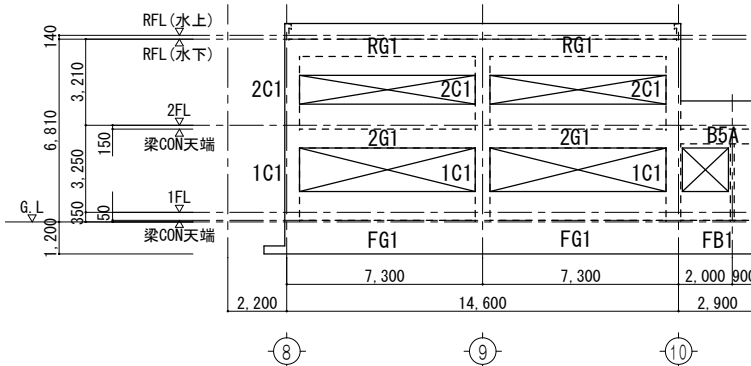
基礎伏図 1/200

は土間コンクリートを示す。
厚さ 150
配筋 D10@200 シングルクロス



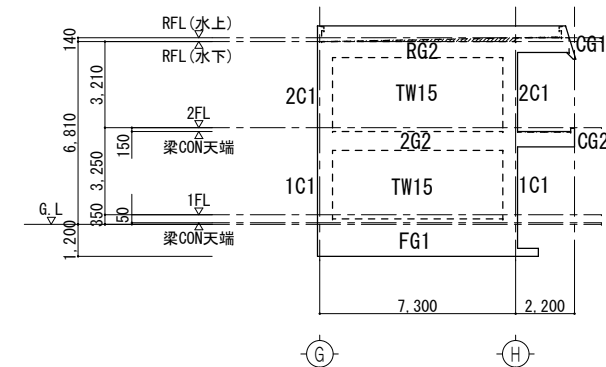
H通り軸組図 1/200

特記なき壁は W15 とする



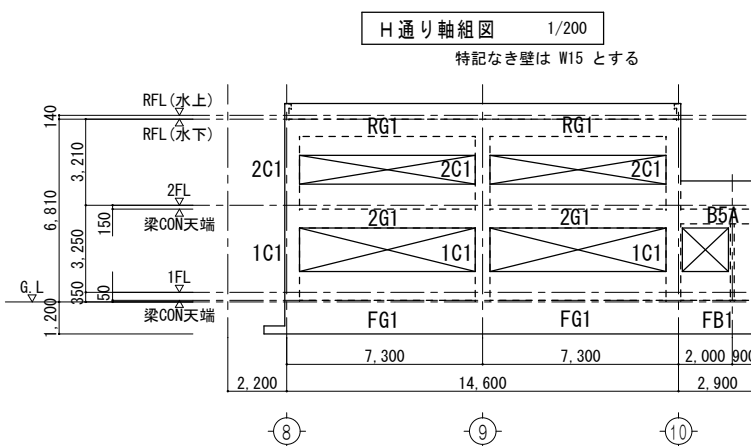
G通り軸組図 1/200

特記なき壁は W15 とする



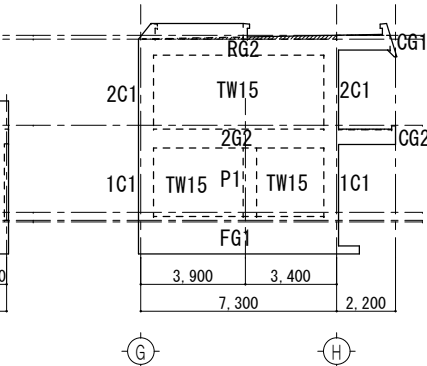
10通り軸組図 1/200

特記なき壁は W15 とする



9通り軸組図 1/200

特記なき壁は W15 とする

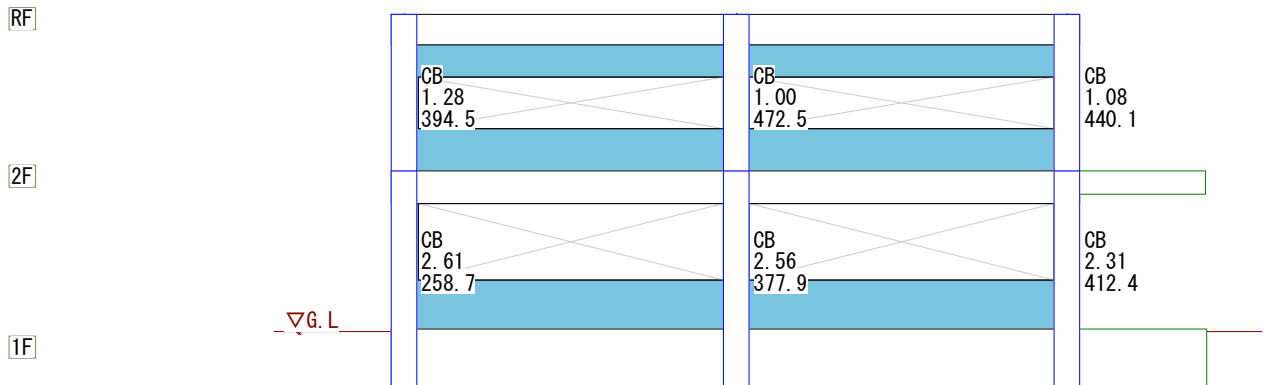


8通り軸組図 1/200

特記なき壁は W15 とする

3.7 破壊形式図

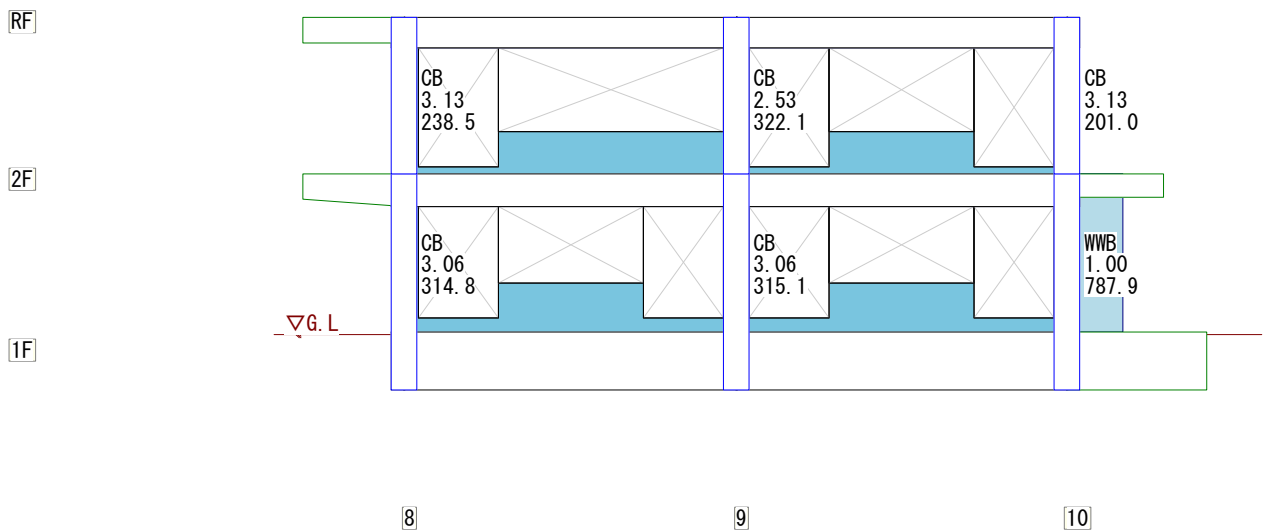
破壊モード図 - 2次診断[X方向正加力]
[G]フレーム(X)



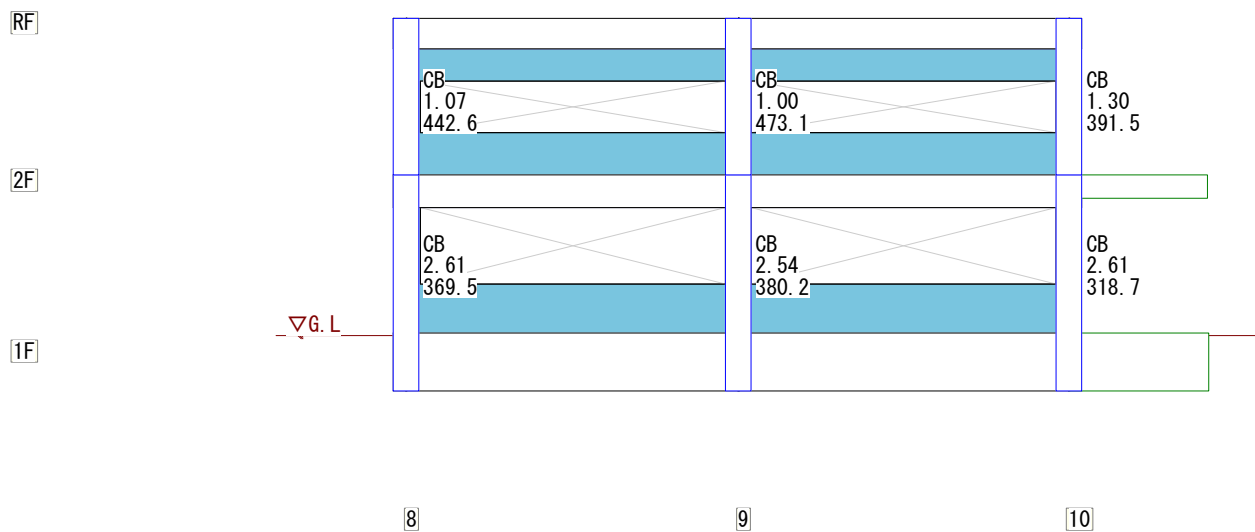
上段：破壊形式
中段：F値
下段：Q_u (kN)

破壊形式凡例
 CSS:極脆性柱 CWSS:壁付極脆性柱
 CS:せん断柱 CWS:壁付せん断柱
 CB:曲げ柱 CWB:壁付曲げ柱
 WS:せん断壁 WB:曲げ壁
 WWS:せん断そで壁 WWB:曲げそで壁
 BS:せん断梁支配柱 BB:曲げ梁支配柱

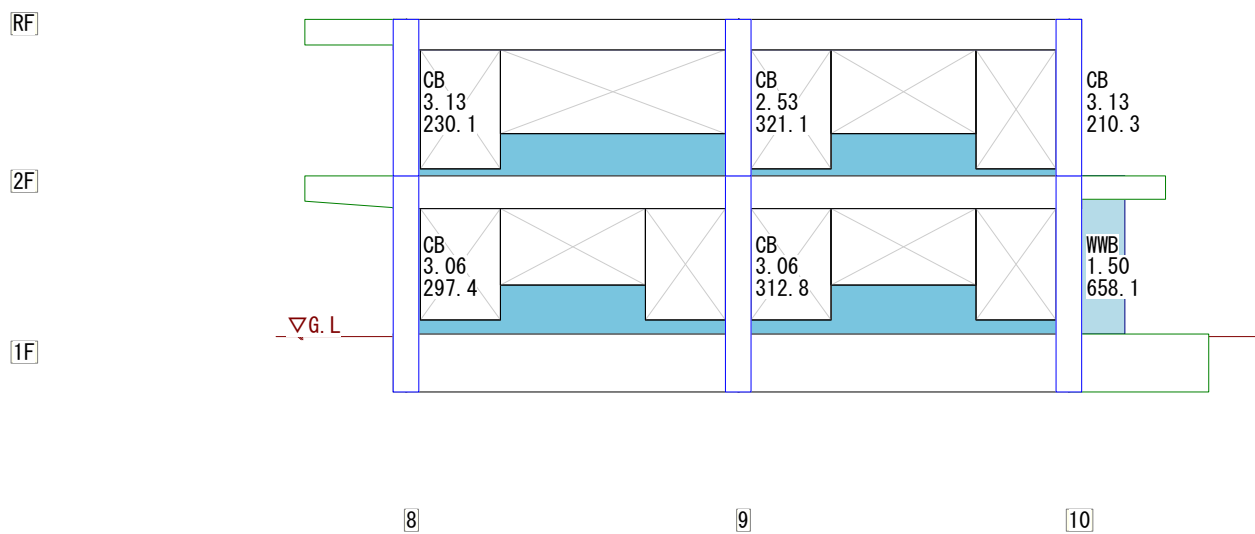
破壊モード図 - 2次診断[X方向正加力]
[H]フレーム(X)



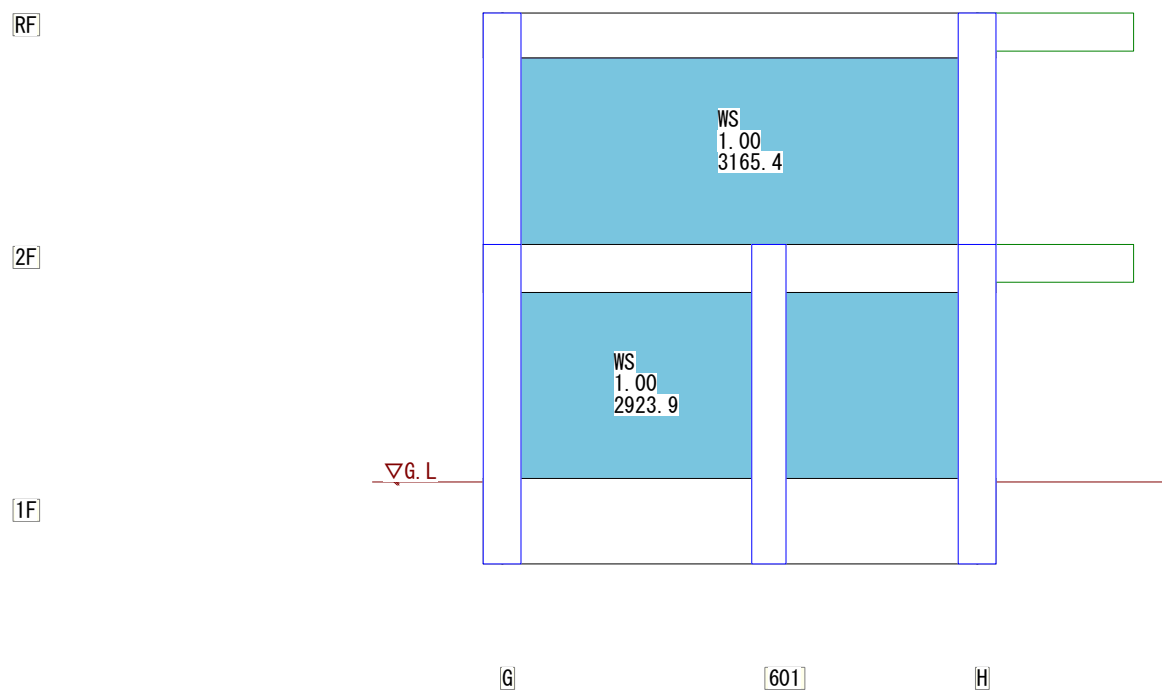
破壊モード図 - 2次診断[X方向負加力]
[G]フレーム(X)



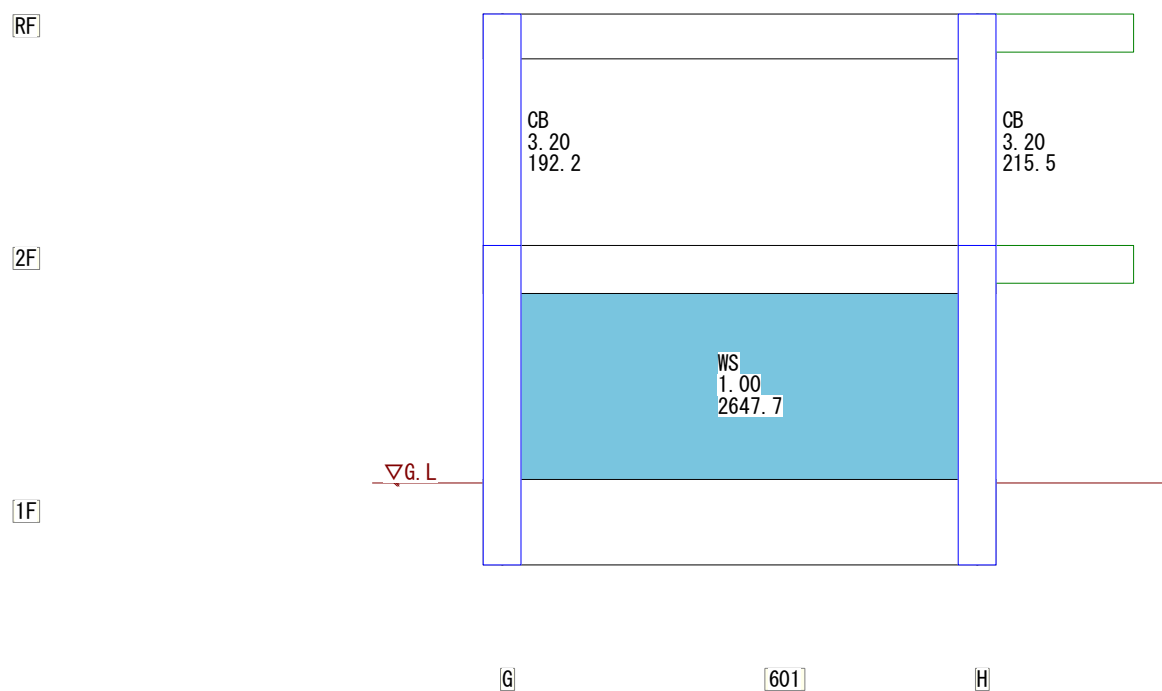
破壊モード図 - 2次診断[X方向負加力]
[H]フレーム(X)



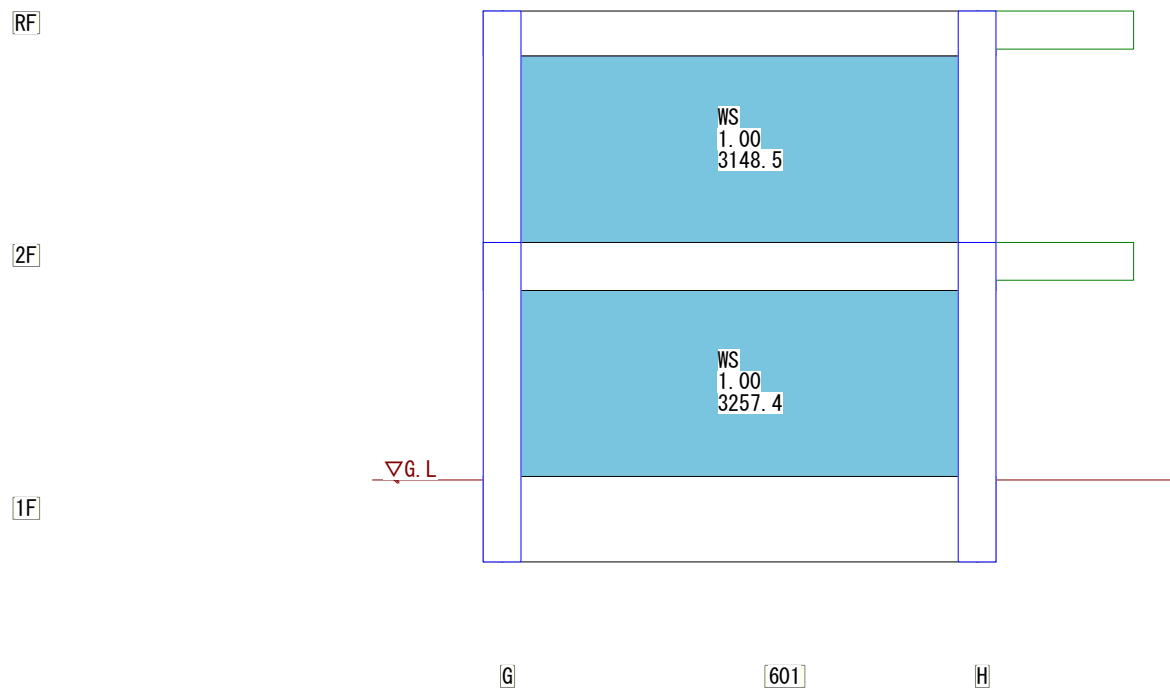
破壊モード図 - 2次診断[Y方向止加力]
[8]フレーム(Y)



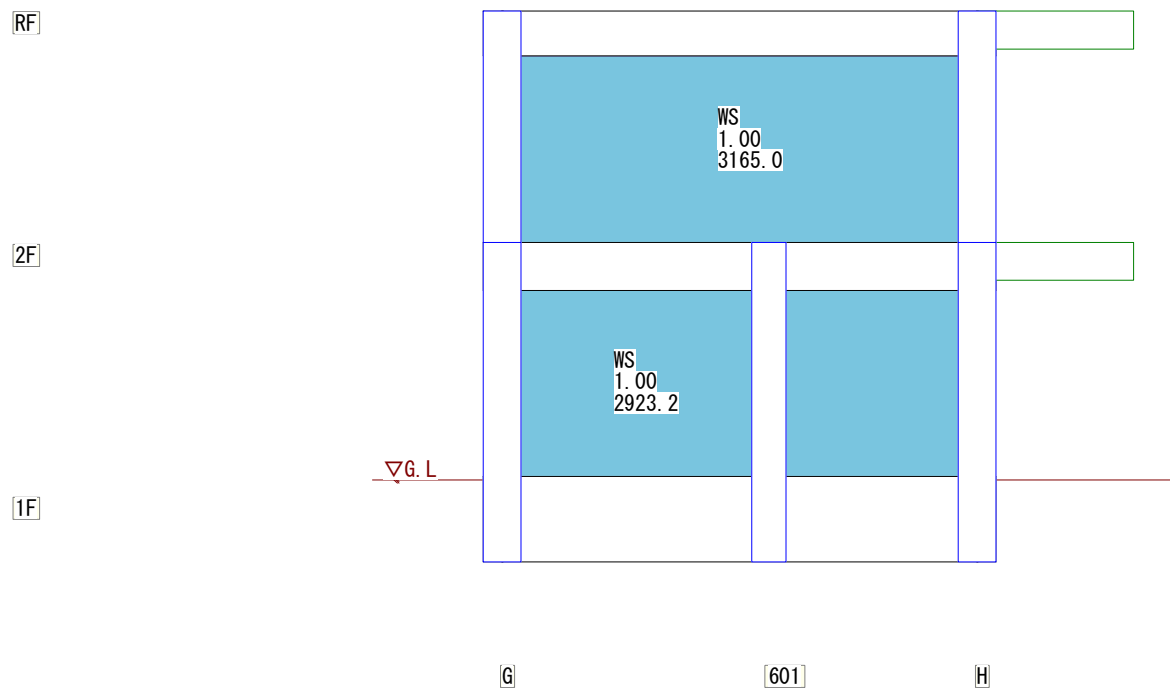
破壊モード図 - 2次診断[Y方向正加力]
[9]フレーム(Y)



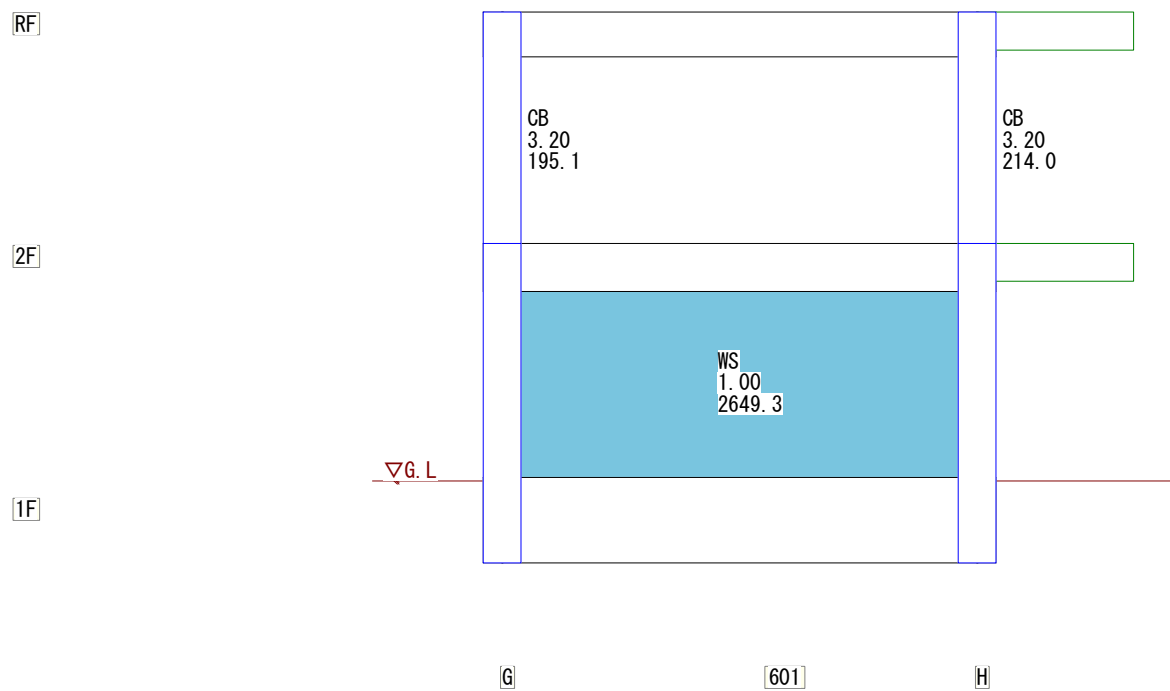
破壊モード図 ー 2次診断L Y方向正加力 ー
[10]フレーム(Y)



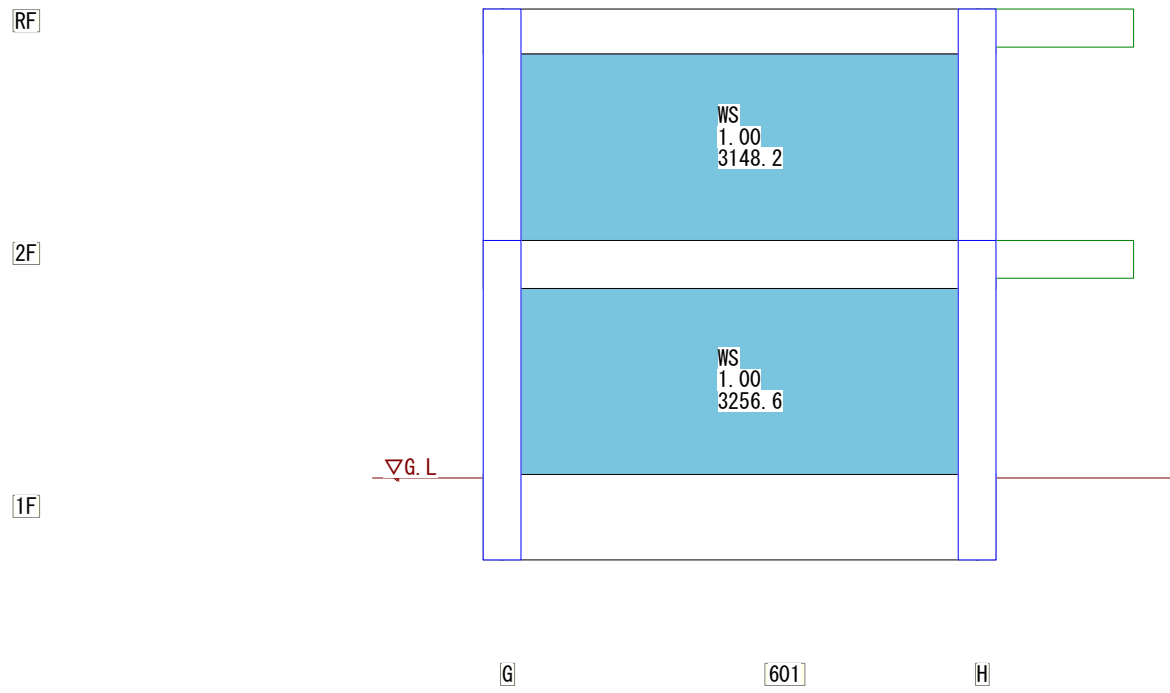
破壊モード図 - 2次診断[Y方向負加力]
 [8] フレーム (Y)



破壊モード図 - 2次診断[Y方向負加力]
 [9] フレーム (Y)



破壊モード図 - 2次診断[Y方向負加力]
[10]フレーム(Y)



第〇〇〇-〇回 (一社)広島県建築士事務所協会建築物耐震診断等評価委員会 質疑回答書

No. 1


(評価委員会 ・ 小委員会)

○印は出席委員

評価委員					
委員長	荒木	○	副委員長	藤原	○
委員	浜口	○	委員	高西	○
副委員長	貞末	○	委員	金井	
委員	近藤		委員	清水	○
委員	大田		委員	坂内	
委員	高松				
委員	清水(資)	○			

件名	〇〇〇〇〇 耐震診断業務	棟番号	〇〇	オブザーバー	〇〇	場所	建築サロン
日時	平成 〇 年 〇 月 〇 日	担当事務所	〇〇〇〇〇	説明者	〇〇	記録者	〇〇

番号	頁	質疑事項	回答	処置
1	I-1	1階の高さはH=3.25mではないですか。確認してください。	修正します。	3.25mに修正しました。(I-1)
2	I-2	片持ち梁の右欄にX方向の持ち出し長さも記載してください。 また、10通り側の片持ち梁について、V-7に記載している内容をこのページにも考え方を記載してください。	記載します。	X方向の持ち出し長さ2.1mを記載し、10通り側の片持ち梁については、「10通りから外側の片持ち梁は先端及び中間に壁があるため、問題ないとする。」と記載しました。(I-2)
3	I-2	がけ地としない考え方を記載してください。	記載します。	「敷地の南側が石積擁壁であるが、高さが2.0m弱であるため、がけ地とは判断しない。」旨を記載しました (I-2)
4	I-6	隣接建物との衝突に対する方針が不明です。 この診断では目標値に対して満足しており、衝突に対して何等かの対策をするかどうか。	衝突対する検討方針、それに対する対策を記載します。	エキスパンションジョイントに対する方針、検討結果を記載、添付しました。 (I-6、III-1、V-19)
5	I-9	2階平面図でH通り側廊下の出の長さを記入してください。 また、エキスパンションジョイントを記載してください。	記載します。	廊下の出寸法を記入し、EXP.Jを記載しました。(I-9)
6	I-11	伏図でH通り側廊下の出の長さを記入してください。また、エキスパンションジョイントを記載してください。	記載します。	廊下の出寸法を記入し、EXP.Jを記載しました。(I-11)
7	V-10	B2の片持ち梁について、検討応力が不明です。また、G～H間の2G1の応力について、各階で処理していないか不明です。フレーム外の片持ちについて、どの部分の検討かわかりづらいので、番号等を記載してください。	応力等を整理し、伏図に検討場所がわかるようにします。	伏図に検討場所の番号を記入し、番号で検討場所がわかるようにしました。(V-7～18)
8	I-9	屋根伏図を添付してください。	添付します。	屋根伏図を添付しました。(I-9)
9		中性化の写真を添付してください。	添付します。	中性化の写真を添付しました。(II-6,7)
10	I-5	第2種構造要素について、'なし'と記入しているが、ここでは検討方法を記入してください。	「残存軸耐力Nr」と記載します。	「残存軸耐力Nr」と記載しました。(I-5)

番号	頁	質疑事項	回答	処置								
11	V-15	滑り台の荷重等はどのようにしていますか。	荷重は本体で、壁については雑壁として剛性は考慮しているが、耐力は無視しています。考え方を記載します。	滑り台について、「滑り台の重量は滑り台がコンクリートスラブという事で本体で負担、壁は雑壁として剛性は考慮するが耐力には考慮しない。」旨を記載しました。(I-5)								
12	I-1	屋根:防水モルタルになっていますが、矩形図よりアスファルト露出防水ではありませんか。	アスファルト露出防水に修正します。	アスファルト露出防水に修正しました。(I-1)								
			修正前	修正後								
		エキスパンションジョイントを考慮しF値の見直しを行った結果、X方向の1、2階でIs値、2階でq値の変更がありましたので、修正前と修正後を左記に示します。	X方向	X方向								
			階	Is値	q値	判定	階	Is値	q値	判定		
			2階	0.89	1.00	両方満足	2階	0.75	2.55	両方満足		
			1階	1.01	1.51	両方満足	1階	0.68	1.51	両方満足		
			Y方向	階	Is値	q値	判定	Y方向	階	Is値	q値	判定
			2階	3.30	11.33	両方満足	2階	3.30	11.33	両方満足		
		1階	2.33	8.00	両方満足	1階	2.33	8.00	両方満足			
												
			※修正を行ったことで、Is値、q値が変更になった場合、 主な変更理由と修正前と修正後の、Is値、q値がわかるように記載してください。 また、Is値、q値に変更がない場合は、「Is値、q値に変更なし」と記載してください。									

